

# 岐大のいぶき

No.4

2002/OCTOBER

発行日：平成14年10月  
発行：岐阜大学  
岐阜市柳戸1番1  
☎058-230-1111(代表)  
ホームページ：[www.gifu-u.ac.jp/](http://www.gifu-u.ac.jp/)

IDAI NO IBUKI GIDAI NO IBUKI GIDAI NO IBUKI GIDAI NO IBUKI GIDAI NO IBUKI GIDAI NO IBUKI GIDAI NO IBUKI GIDAI NO

Published by GIFU UNIVERSITY

## セレンディピティー

岐阜大学副学長(教学担当):古田喜彦 ——— 2

### 地域と大学

地域と大学を医療でつなぐ医学部附属病院 ——— 3

### 話題の研究

都市・地域計画と空間情報統合化技術  
地域科学部:宮城俊彦教授 ——— 4

生命科学の研究とバイオベンチャー創出  
農学部:中塚進一教授 ——— 6

### エッセー

アーミッシュから学ぶもの  
教育学部:大藪千穂 助教授 ——— 8

### 授業風景 ——— 10

研究室で実験三昧「初期体験実習」

野外に飛び出して地球の姿を学ぶ「地球科学特論」

### 座談会 ——— 12

看護学生の海外見聞と将来の夢

### キャンパスツアー(柳戸地区) ——— 14

CAMPUS MAP ~岐大の散策スポット~

### 平成15年度学生募集人員 ——— 16



岐阜大学



# セレンディピティー



副学長(教学担当)  
古田 喜彦

どの民族にも昔話がある。昔・昔、アラブの王子様が王様に追放され、アラビア海をさまよひ、苦難の末、偶然に豊かな宝の島、セイロン(アラビア語でセレンデップ、今のスリランカ)を発見したという昔話に起源をもつ『セレンディピティー』は、研究上の出来事に汎用されるまで市民権を得た。

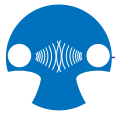
いろいろな発見あるいは技術革新における発明には幸運とともに、なによりも常日頃の切磋琢磨と研ぎすまされた感性や洞察力が必要。近くは一昨年ノーベル化学賞を受けた岐阜県ゆかりの白川英樹博士の例 指導学生が間違っ調整した非常識な濃度の触媒での反応産物で偶然に受賞の対象となった伝導性ポリマー、ポリアセチレンを発見 をあげることができる。こうしたことは白川先生に限らずほとんどのノーベル賞受賞者にその種の語り草がある。『発見とは、誰もが見ていることを見て、誰も考えなかったことを考えること』といわれたり、パストゥールは『観察の場では、待ち受ける心を持つ者にだけ味方するもの』と語られるものが科学にある。いずれにしても、予期せぬ観察結果を、なんとか理解しようとする好奇心、些細なことや面倒なことあるいは失敗を単なる失敗として処理するのではなく、おもしろいと注目する認知力も大切だとか。教科書どおりでないことにこそ発見がある。

アメリカのある物理学者は、『偉大な発見の種はいつでも私たちの回りを漂っているが、それが根を下ろす(発見される)のは、十分待ち構えた心を持つ人に限られる』と言った。確かに、果物が落下することは、洋の東西、いつの時代にも、多くの人によって目撃されていたはずである。知恵があり、日々物体間の物理的相互関係に疑問を持っていたニュートンはリンゴの落下を見て初めて万有引力の法則を発見したとか。その発見が、リンゴの落下に限らず時空を超えて、宇宙までもの運動の原理の理解へと発展した。

皆さんも、学習、研究そして何にでも熱中・集中して、逆に時にはゆったりした心になって、セレンディピティーの女神に出会って欲しいものです。



作: 藤森 明子



## 地域と大学を医療でつなぐ医学部附属病院

附属病院は地域医療の拠点としての長い歴史を持ち、岐阜大学の看板として地域社会にしっかりと根付いています。北島康雄病院長に、附属病院の地域医療における役割や平成十六年七月開院を目指して建設が進んでいる新病院での医療、さらにその前に予定されている国立大学の独立行政法人化との関係などについて語っていただきます。



北島康大医学部附属病院長

**地域医療に医学部附属病院が果たしてきた役割についてお聞かせ下さい。**

**北島** 大きく分けて二つあると思います。一つは地域の診療所や病院等で手当てできない難病、重病、まれな病気に対する高度医療の提供です。もう一つは医局の機能でもありますが、山間部や民間の病院への医師の派遣です。どうしても、最先端の技術を持つ医師は自然に任せれば

当然都市部や大病院に集中します。しかし、数年という単位で遠隔地や民間の病院に十年から二十年目のベテラン医師を派遣することによって、大学などの高度先進医療技術も広げることができま

**新病院の役割や特色についてお聞かせ下さい。**

**北島** 新病院では完全電子カルテを採用します。このシステムではレントゲンフィルムも心電図等の記録紙もありません。全てコンピュータに保存され、それは患者さんと担当医が合意すれば大学病院でも、開業の先生の医院でも、県病院でもフィルムなどを持っていくことなく受診することができるシステムです。これで診療分野の分担を地域完結型として行うこともできます。これを目標に全病院内共同して努力しています。

**独立行政法人化との関係はどうでしょう。**

**北島** 独立行政法人化では、よリマネジメント改革が要求されます。大学病院は教育、研究と高度先進医療の提供という三つのサービスである役割を税金で行う施設です。本来はもうけが

できるように考えた医療をするところが任務ではなく、社会が要求する優れた医師の育成、新しい医療技術の開発、採算のとれない高度医療を提供することが目的です。しかし、多額の税金を使う(収入より支出が多いということ)ことの

説明責任があるので、当然マネジメント改革がより重要になると思います。

**附属病院における研究の特色はどのような点にあるのでしょうか。**

**北島** 研究については医学部と一体化しているので分けがたいのですが、病院としての観点からは、一般専攻と再生医科学専攻大学院に直結した高度医用の研究開発と完全電子カルテシステムの採用後にはこれを用いた

研究面の独自性があると思います。個々の診療科ではそれぞれが厚生労働省各種の研究班、文部科学省などの特別臨床研究に関与して特色を出していきます。

聞き手 安田孝志(編集委員長)



建設中の医学部附属病院 平成14年9月3日撮影





# 都市・地域計画と空間情報統合化技術

地域科学部地域科学科 宮城俊彦



## 都市・地域計画で扱う情報とは

都市・地域計画は多くの空間情報の統合化を基礎にして成立している専門領域である。都市・地域計画で利用するデータは、社会・経済指標や人口などの統計データ、地形・地勢データ、植生や生態系に関するデータ、あるいは都市計画用途地域や土地利用などを表す地図や主題図などである。これらのデータを有効に活用することによって将来の都市活動や環境の変化を予測したり、都市計画・交通

計画などの計画立案や都市政策の効果の評価したりする。しかし、この種のデータは量が膨大であること、また、データの種類が多岐にわたる等の理由により、多くのデータが未利用のままであったり、効果的に利用されない場合も多い。特に、航空写真や衛星画像などのイメージ・データあるいは地形データなどはデータ管理の問題、また、有効な利用方法が開発されていないこともあり、特殊な利用法以外は都市・地域計画で用いられることはまれであった。しかし、近年の地理情報システム(GIS)の発展は、空間情報やイメージ・データを統計データと統合することを可能にし、新たな都市・地域計画の領域を広げつつある。

## 地理情報システムを基礎とした都市・地域計画

図1は、戦略的都市・地域計画の範囲を概念的に示したもの

である。戦略的都市・地域計画では時間的・空間的データ管理とそのシステムティックな計画への応用が重要になる。地域科学部の都市環境デザイン研究室では、地理情報システムを中心に、様々な空間情報の統合化技術を各種の計画領域に適用すべく、新しいシステム構築に取り組んでいる。

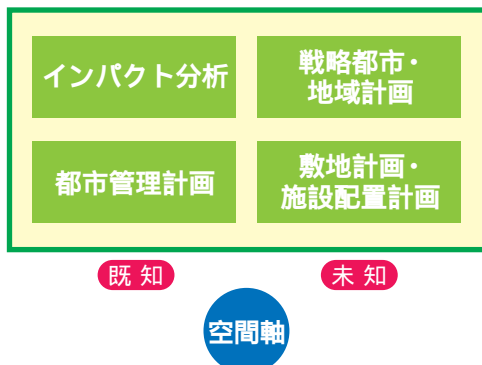


図1 戦略的都市・地域計画の基本枠組み

## 抽象モデルからビジュアル・モデルへ

都市・地域解析を行うには大きく三つの装置が必要である。第一に解析装置である。一般に都市解析は数理モデルの形態をとおり、都市の活動を非線形の連立方程式体系で表現し、コンピュータによって都市の複雑な相互作用を記述する。都市活動を数理モデルで記述するためには、数学は無論であるが、経済学、都市工学あるいは環境科学などの知識が必要になる。従って、研究分野を問わず世界の多くの都市研究者が取り組んできた課題であり、私の研究の中心課題でもある。しかし、数理モデルは極度に抽象的され、記号化された世界であり、専門家以外には魅惑(魅力)の外界である。現実の都市・地域計画に応用していくには、抽象化された空間・活動描写をよりリアルな空間・活動表現に移植することが必要になる。この仲介的な役割を果た



すのがGISである。GISは地図をデジタル化し、コンピュータで処理できるようにする仕組みだと考えてもらえばよい。個々の建造物あるいは道路などもコンピュータで読み取ることができると同時に、空間の属性、例えば、ある地区の人口、社会的経済的特性、環境特性等も記憶することができる。すなわち、GISは実際のリアルな空間をデータとして記憶する記憶装置の役割を果たす。

### 空間情報の統合化

GISは記憶装置としては優れているが、それを三次元のリアルな空間として表現する機能は十分ではない。したがって、視覚化装置が必要になる。視覚化に必要なデータは衛星画像や航空写真あるいはビデオや写真などのイメージデータである。これらのイメージ・データをCADやカメラビジョン技術あるいは航空写真のステレオ分析などによってデジタル化された地形や構造物の三次元ジオメトリにマッピングして三次元イメージ空間が作成される。それから全体のプロセスを統括するシステムが景観シミュレータであり、数理モデルを組み込むように

現在開発中である。

三次元空間データやイメージ・データの利便性は、まだ、始まったばかりであり、その効果的な利用法を含め今後の研究成果に待つところが大きい。効率的なデータベース構築とユーザインタフェースの開発なども課題であるが、現在の情報化技術は、これらの諸問題を解決できるレベルにまで発展してきており、空間情報化技術の利用は、現在、世界の都市デザイン分野のホットな研究領域になりつつある。このようなデジタル情報の統合化技術が進展する一方、都市活動の相互作用に関する我々の知識はまだ不十分である。わが研究室も数理都市モデルと都市空間ビジュアライゼーション技術のギャップを埋める努力を行っているところである。

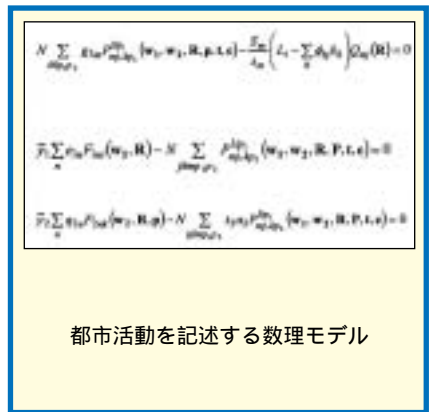


図2 開発中の空間情報統合化システムのアウトプット



# 生命科学の研究とバイオベンチャー創出

農学部生物資源利用学科 中塚進一



## 植物病原菌の研究

ナシやイチゴの黒斑病菌は宿主植物を認識し、寄生するために宿主植物だけに特異的な毒素を放出します。病原菌の胞子が空気中を漂って伝搬し、植物の葉の表面に付着して

でも毒素を作れなくすれば感染できなくなると考えて研究を進め、毒素生産を三分の一まで抑制することに成功しています。将来は病気を防除できるようにしたいと考えています。

## 食品中の有効成分の研究

茶カテキン、大豆イソフラボンなどは抗酸化性、抗菌性、抗癌性、抗骨粗鬆症などの機能があり注目されています。これらはいずれも生体中には類似物質が複数存在し、しかもその活性が異なることが知られています。

私の専門は、化学的手法を用いて生物現象を解明する生物有機化学という分野で、柳瀬笑子助手と二人で研究室を運営しています。私が名古屋大学大学院生、ハーバード大学博士研究員当時にお世話になった恩師の岸義人先生（現ハーバード大学教授）は、ふく毒テトロドトキシン、海ホタルシフエリンなどの構造研究や合成などの業績が高く評価されてハーバード大学に移られて、当時日本人の頭脳流出と騒がれました。この研究分野は当時、基礎的な研究分野として代表的なもので、直接社会に役立つとは思ってもみななかった

ものです。植物に毒性を示しますが、これらの分離精製、構造解析、人工的な合成などと共に菌体内での生成機構や毒性を発揮する機構などを研究しています。

農作物の病気を防除するためには、農薬（殺菌剤）を散布するのがこれまでの方法ですが、それでは生き物を広く殺してしまうために生態系に影響します。病原菌を殺さなく



必要になります。この純粋な成分は大学、企業の研究者が使用しますが非常に高く（十ミリグラムで数万円）、市販されていないものも多いのが現状です。当研究室ではこれらを簡便に分離精製する独自の方法を開発することに成功して、それぞれの成分を十グラム単位で得て、これを材料にして活性発現の機構やより有益な誘導体の合成を行っています。





有用食品成分の構造



これまでに合成した天然物の構造



抗生物質、抗癌剤等の合成

植物、菌などが生産する抗生物質などは医薬品として用いられていますが、病原菌の耐性獲得により効かなくなりません。そこで、非天然型の合成、半合成薬剤が重要となつていきます。新しい合成反応を開発して効率的に新規医薬品を合成する技術もハイテク技術の一つであり、生命科学研究の重要なツールとなつていきます。

研究成果によるパイオベンチャー創出

当分野の研究にとつて最も時間のかかるのは分離精製の過程です。従つて、この精製工程を正確に、しかも効率的に行うことができれば研究を進める上で極めて有力な武器になります。当研究室では独自の分離精製法を開発して、例えば時価数千円の試薬を簡単に作り出すことが

できます。これにより存分に高価な試薬を使用できるようになっていきますので研究面でもそれぞれの分野で独壇場となつていきます。

この独自の方法は食品、和漢薬などの成分の分離に極めて幅広く利用することができるので、この技術を広く生命科学研究に役立てるために、一九九九年にパイオベンチャー「有限会社ナカハラ科学」を岐阜大学近くに設立しました。二〇〇〇年から国立大学教官の会社役員が認められ、筆者は国立大学初の代表取締役の兼業をしています。また総勢四名の会社ですが複数の大手試薬会社のカタログに約六十種類の試薬が掲載されて順調に売上げを伸ばしつつあり、世界の生命科学研究の発展に貢献しています。企業創出による岐阜地区の活性化、卒業生の就職先確保、大学の研究費確保、大学の研究材料の確保、研究者の地位向上、大学の活性化等、大学側にも多くのメリットがあります。

朝顔が12月まで咲くことを知る!

朝顔の色素は茶カテキンや赤ワイン色素と同じポリフェノール類です。

昨年、この研究のために岐阜大学の農場に朝顔を栽培したところ12月まで盛んに咲きました。今年は岐阜市内の長良公園内に朝顔を栽培しています。8月から咲き始めましたのでぜひご覧下さい。今年も12月まで咲くでしょうか。岐阜の活性化は朝顔で!



2001.11.27 岐阜大学農場にて



2002.5.21 長良公園にて



# アーミッシュから

## 学ぶもの

教育学部 大藪 千穂

大学から文化が薄れて久しい。少し前まで、大学は文化の中心であり、ゆつたりとした時間の中で、様々なことから思いを馳せる余裕があった。今日、もはや大学から発信する文化はほとんどなく、個々人が楽しむ「蛸壺文化」へと姿を変えている。大学のみならず、現在の世の中の慌ただしさは、私達の時間的、空間的、精神的ゆとりさえ奪ってしまっている。他者を思いやる心や自然を愛でる余裕、そして生活に華を添える文化のことまで、のんびりと気を回してられないのだ。これが、ぎすぎすした人間関係や種々の環境問題を引き起こしている根本原因なのかもしれない。

このような閉塞と絶望感にとらわれていた時、アーミッシュに出会った。世界一の先進国であるアメリカで、二百年前のライフスタイルをあえて保っている、穏やかで、平和な人々。自信に満ちあふれながらも謙虚。自然に感謝し、自然と共に暮らす人々。他者を敬い、共に助け合って暮らす彼らの生活には無理がない。言い訳もない。独自の文化に誇りを持ち、大切に守っている。生活のリズムやスピードを自分達でコントロールしている。電気や電話を家にひかない、自動車は持たず馬車を使う、決まった洋服、

八年間の学校教育など、彼らのライフスタイルは一見、奇異に見える。しかし、彼らは「現代文明」を知らない訳ではない。それを横目で見ながら、独自の生活を守り続けているのだ。

アーミッシュにひかれ、彼らのライフスタイルが、私達のこれからの暮らし方のヒントになるのではないかと感じ、私はアーミッシュの研究をここ数年続けている。幸運にも彼らと一緒に暮らす機会を得て、多くの事に気づいた。自然と共生したライフスタイルによって、エネルギー消費の速度が落とされ、環境負荷の少ない生活が可能となっている。家族やコミュニティの強い結びつきにより、非行や家族問題は極めて少ない。親密なやりとりによる質の高い情報が彼らの内的世界を豊かに保っている。生活をコントロールする自制心と先を見通す目によって、時間に追われず、アイデンティティを失わずにすんでいる。アーミッシュの人々の生き方を知ると、「進歩」とは何か、「豊かさ」とは何かを、もう一度考えずにはいられない。生活をトータルに見直すこと、近代文明を歴史的視野から見直すことは、グローバルな文化と全体的感性の回復に結びつき、我々が再び豊かさを取り戻すきっかけとなるにちがいない。

(参考) ドナルド・B・クレイビル著、杉原利治・大藪千穂訳、『アーミッシュの謎』、論創社、一九九六年)





## 研究室で実験三昧「初期体験実習」

私はつい先日まで、初期体験実習ということで、細胞情報学教室で勉強をしていました。

この初期体験実習とは1ヶ月間、4・5人のグループが基礎医学の各研究室に配属されて普段の講義形式の授業ではできない勉強をしようというものです。その1ヶ月間は各担当教官と大学院生の指導を受けながら色々な興味深い実験などができるということで、皆が待ちわびていたものです。医学部を卒業する学生のほとんどは臨床医として病院などで働くことを選びます。その反面、研究医となり基礎医学の研究の道を選ぶのはごく少数です。そういうわけでこの初期体験実習が最初で最後の研究室体験となるかもしれないため、皆が楽しみにしているのです。

私たちはアポトーシスという細胞の死について勉強しました。とはいえ、教科書を読むだけではなく、このアポトーシスにまつわる色々な実験を行ったわ

けです。ひとつの実験で1日が終わったり、はたまた1週間続く実験だったりという様子です。このアポトーシスについてもですが、教科書では何気なく素通りしている事項に関しても実験をしようとなるものすごく手間がかかるのです。研究とはまさにそういう地道なものなのかもしれないと感じました。またその積み重ねが現在の医療医学を支えているのも事実です。

はじめは時間は長いと思っていた1ヶ月も、今になって思えばあっという間に通り過ぎた感じです。しかしその短いと感じた1ヶ月間は非常に濃密な時間だったというのも確かです。この実習を通して私たちは普段の講義では得られない緊張感と感動を得ることができたといえます。

医学部医学科2年 玉井 裕也



いろいろな実験器具に囲まれて



おなじみの顕微鏡



無菌操作は一苦労です



## 野外に飛び出して地球の姿を学ぶ「地球科学特論」

「地球」それは、おおいなる生命の源。遠き昔より長き歴史を経て着実に変化しています。

学際科目「地球科学特論」は工学研究科博士前期課程の大学院生向けに開講されている科目で、どの専攻の院生でも受講できる学際科目の一つです。社会基盤工学科と電気電子工学科の教官によって講義されています。この講義には数回の野外巡検が組まれています。その中の1回、「鵜沼巡検」では、大学を飛び出し岐阜県各務原市の木曾川河川敷において、地球の変化の様子を知るために、プレートの動いた形跡が分かる地層の変化を観察しました。初めに、その土地の特徴や岩石についての講義を受けた後、普段持ったことのない岩石ハンマーを片手に、様々な地層から岩石を採取しその特徴を観察しました。また、河川敷を上流に上ったり、下流に下ったりすることにより、その岩石の分布の違いからプレートの移動している状況を観察しました。普段研究室での研究が主な私にとって、野外での講義は新鮮で驚きを感じました。河川敷の移動は、道無き道を進み、時には岩を飛び越え、まるでサバイバルゲームをしている感じでした。「岩石という宝を探し、自分の足で歩く」こういったことは、学内での講義では体験できない、大変貴重な体験でした。

大陸は、日々変化しています。時には、ゆっくりと、時には、急速に。地球が、生まれてからの歴史が、

この河川敷の一部にぎっしりと詰め込まれていました。普段の講義で「言葉」で教えられたものが「現実」となって目の前にあると、そのスケールの大きさに驚きを感じます。普段、気にも留めない岩石の塊から地球全体の動きが想像できるのです。

情報化社会の発展に伴い、知識が先行し実物を目にする機会が減少しています。こんな世の中で、自然の中で自分の足で歩いて、目で見、手で触れたことで、本物と触れ合う大切さを改めて感じました。

大学院工学研究科博士前期課程1年 吉田 茂史



周辺の岩石から得られた、約1億8千万年前の放射虫化石  
大きさは約0.1 mm



約1億3千万年前、この断層ができた時の応力場を復元できるかな？ 各務原市の木曾川の河原にて



# 看護学生の海外見聞と 将来の夢

司会：松田好美 岐大のいびき編集委員  
 出席者：山田文太 岐阜大学医学部看護学科(年)  
 大野清子 岐阜大学医学部看護学科(年)  
 請地未姫 岐阜大学医学部看護学科(年)  
 田口恭子 岐阜大学医学部看護学科(年)  
 西尾文枝 岐阜大学医療技術短期大学部(三年)  
 竹中由希子 岐阜大学医療技術短期大学部(三年)  
 菅生綾子 岐阜大学医療技術短期大学部(三年)

**松田** 今日は皆さんに集ま

っていただき、自分の海外体験を自由に語っていただきたいと思えます。ケーキとジュースは自由に召し上がってくださいね。

**西尾** 看護学科に来る前に

一年間アメリカに留学していました。大学は英文学科なんですが、このままツアコンとか英語教師になるのには迷いがあったんです。そんなときに留学してアメリカの老人ホームなどを見学に行き、そこで働く看護師さんを知り合い、その中でこの仕事っていいなと思えたんです。そして英語が利用できる職業という事で、看護師を目標とつと決心しました。

**田口** 私も他の大学で英文

学専攻だったんですけど、英語をやっていて、その先にじゃあ何があるのかなと思って。今は多分英語を話すことが当たり前の時代にどんな近づいていると思うんです。だから、英語プラスアルファで、専門的な知識があるといいと思ったのね。

**菅生** 私はニュージール

ランドに行ったときに、環境の違いもあったのか、途中で風邪をひいたの。ホストファミリーが「大丈夫か」とすごく心配されて、薬などを買ってきてくださったんです。コミュニケーションがそれほどとれていたわけじゃないけれど、私の心細い気持ちを通じ

**請地** 私は去年の夏も中国

にやってきました。今回は、現地七、八人の学生と一緒に旅をして、環境問題について考えたり、実際に植林をしたんです。言葉がうまく通じなくて、すごく落ち込んでいたんです。でも一緒に植林をしたり、環境について考えるところが、目指すところが同じだったせいとか、一体感が感じられて、とても魅力的な経験でしたね。だから菅生さんが言われた「気持ちの共通」というのに賛成です。気持ちが通じ合えるというのは看護と

**菅生** そうね。でも言葉も

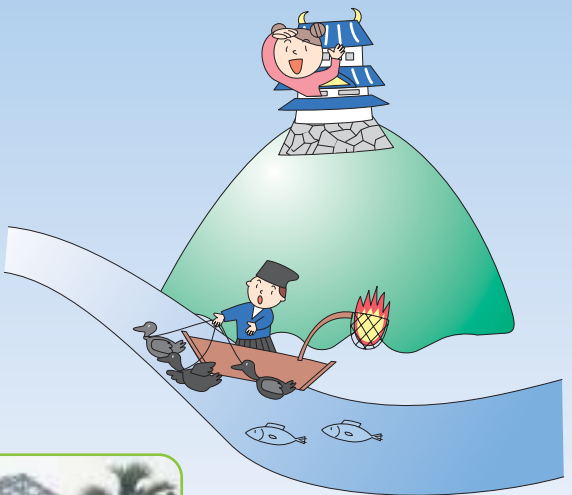
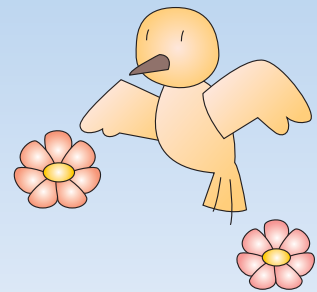
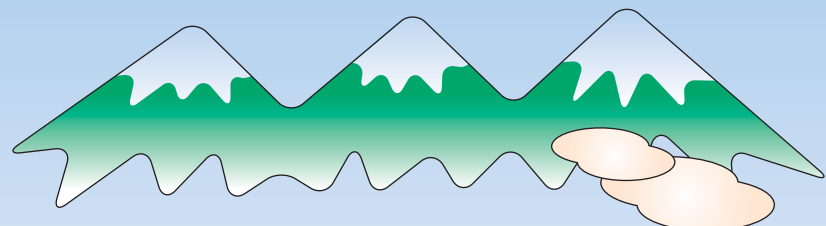
大切でしょう。実際、母性看護学実習で、A病院に行ったときに、ブラジル人のお母さんが入院されていて、受け持たせていただいたのですが、本当に身近に外国の方が入院してこられますね。




**田口** 私も言葉は大切だと

思うわ。旅行が趣味なのでいろんな所へ行きました。二年間青年海外協力隊でマレーシアへも行ったのね。試験では英語力は必須なの。ただ、行って住んでみて思ったのは、語学は必要だとはいうものの、やっぱりみんな人間だから、言わなくても分かるというところはあ







-  ...屋内公衆電話
-  ...屋外公衆電話
-  ...郵便ポスト



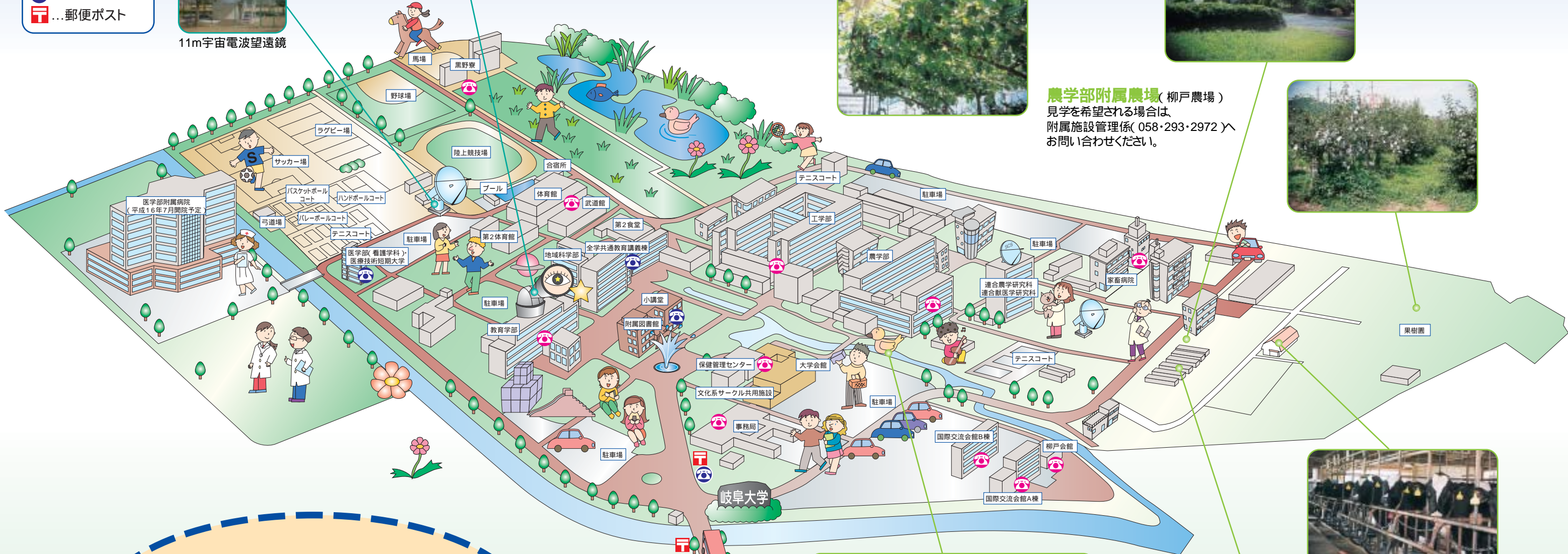
11m宇宙電波望遠鏡



**天体観測ドーム内の天体望遠鏡**  
 3ヶ月に1度、天文教室を開催  
 詳細は<http://chigaku.ed.gifu-u.ac.jp/chigakuhp/>  
 をご覧ください。



**農学部附属農場(柳戸農場)**  
 見学を希望される場合は、  
 附属施設管理係(058・293・2972)へ  
 お問い合わせください。



# CAMPUS MAP

~ 岐大の散策スポット ~



学内にある川で泳ぐカモの親子





平成15年度学生募集人員

学部	課程・学科	入学定員	一般選抜		特別選抜				
			前期日程	後期日程	推薦入学	推薦入学	社会人	帰国子女	
教育学部	学校教育教員養成課程	200	107	68	2	23			
	養護学校教員養成課程	15	10	5					
	生涯教育課程	35	23	9	3				
	計	250	140	82	5	23			
地域科学部	地域科学科	100	65	20	5	8	2		
医学部	医学科	80	55	10		15			
	看護学科	80	47	20	10		3		
	計	160	102	30	10	15	3		
工学部	昼間コース	社会基盤工学科	60	38	11		11		
		機械システム工学科	60	40	10		10		
		応用化学科	55	35	10		10		
		電気電子工学科	60	44	15		1		
		生命工学科	60	42	8		10		
		応用情報学科	70	50	10		10		
		機能材料工学科	55	35	10		10		
		人間情報システム工学科	50	32	10		8		
	数理デザイン工学科	40	25	10		5			
	計	510	341	94		75			
	夜間主コース	社会基盤工学科	5			2		3	
		機械システム工学科	5			2		3	
		応用化学科	5			2		3	
		電気電子工学科	5			2		3	
		生命工学科	5			2		3	
応用情報学科		5			2		3		
機能材料工学科		5			2		3		
人間情報システム工学科		5			2		3		
計	40			16		24			
農学部	生物資源生産学科	53	37	5	5	5		1	
	生物生産システム学科	54	38	6	6	3		1	
	生物資源利用学科	53	36	6		10		1	
	獣医学科	25	14	4		6		1	
	計	185	125	21	11	24		4	
合計	計	1,245	773	247	47	145	29	4	

(注) 推薦入学 は大学入試センター試験を課さない推薦入試、推薦入学 は大学入試センター試験を課す推薦入試です。  
 詳細については「入学者選抜に関する要項」「学生募集要項」等で確認してください。

大学・学部情報問い合わせ先 入学試験、教育・研究、大学院、就職・進学

学部(問い合わせの内容)	担当係	所在地	電話番号(直通)
入試の全般的なこと	学生部入試課入学試験係	〒501-1193 岐阜市柳戸1番1	058-293-2156、2157
教育学部	教育学部学務係		058-293-2206、2356
地域科学部	地域科学部学務係		058-293-3025、3326
工学部	工学部学務係		058-293-2371、2384
農学部	農学部学務係		058-293-2838、2839
医学部・看護学科	医学部看護学科入学試験事務室	〒500-8705 岐阜市司町40番地	058-293-3217、3218
医学部・医学科	医学部学務課学務係		058-267-2335、2973

大学入試センター試験 平成15年1月18日(土)、19日(日)  
 前期日程試験 平成15年2月25日(火) [教育学部実技検査 26日(水)]  
 後期日程試験 平成15年3月12日(水)

編集後記

「岐大のいぶき」で紹介できるものは本学の多様な個性のほんの一端です。しかし、総体としての岐阜大学となると、多くの地方大学のひとつとなって無個性化してしまうようで、やはり、時間はかかって

も様々な切り口で岐阜大学の個性を知っていただく必要があります。そのためにも、本誌が少しでも多くの人に読んでいただけるよう工夫を加えてゆきたいと考えています。

岐大のいぶき編集委員会

岐大のいぶきについてのご意見・ご要望をお待ちしています。

委員長 安田孝志(工学部)  
 委員 星博昭(医学部)  
 松田好美(医療技術短期大学部)  
 天谷孝夫(連合農学研究科)

提出先/岐阜大学総務部総務課広報室  
 〒501-1193 岐阜市柳戸1番1  
 TEL058-293-2009 FAX 058-293-2021  
 E-mail: kohositu@cc.gifu-u.ac.jp

表 紙:GISデータを基に作成した3D都市景観  
 広報誌名の由来:「いぶき」は、滋賀・岐阜県境にある伊吹山と活動をよもやす気分・生気・活気を意味する息吹をかけており、岐阜大学の「いぶき」を感じてほしいという願いが込められています。